

ぼやあ樹だより

今月も空き情報や小規模多機能の利用例などの広報誌「ぼやあ樹だより」をお送りさせていただきます。また、弊社ホームページでは、各事業所のニュースなども掲載しておりますので、ぜひご一読いただきますと幸いです。

空き
情報

小規模多機能型居宅介護ぼやあ樹 空き情報 (2026年3月1日現在)

ぼやあ樹の6事業所(新子安・神大寺・平川町・松本町・江ヶ崎町・関内)の空き情報をお知らせ致します。ご利用をご検討の際に、参考にしていただければと思います。

地域	事業所名	泊まり	通い	訪問
神奈川区	ぼやあ樹 新子安	◎	◎	◎
	ぼやあ樹 神大寺	◎	◎	◎
	ぼやあ樹 平川町	◎	◎	◎
	ぼやあ樹 松本町	△	◎	◎
鶴見区	ぼやあ樹 江ヶ崎町	◎	△	◎
中区	ぼやあ樹 関内	◎	◎	◎

- ◎ 空きあり
- △ 曜日等 要相談
- × 満員(空き待ち)

LINE 公式アカウント

始めました！！

LINE アプリの「お友達追加」→「QRコード」から下記の QR コードを撮影して、ご登録お願いします☆

ぼやあ樹からのお知らせ

この度、当社独自の生活保護受給者の方を限定とした

【利用料金 割引キャンペーン】を実施することとなりました！！

2026年3月～4月にご利用開始となった方に限り、

自費分(食費・宿泊費)を割引金額でご案内いたします。

“生活保護だけど泊まりを利用しながら少しずつ自宅を目指したい”

“生活保護なのでサービス費用はなるべく削減したい”

“生活保護を理由にサービスを断られてしまう” など

介護サービスに困っている方や当キャンペーンにつきましてご不明な点等
がございましたら、遠慮なく相談窓口までお問い合わせください。

相談窓口☎:045-620-5540



3・4月限定!! 期間限定 3/1～4/30まで

小規模多機能型居宅介護ぼやあ樹 <生活保護利用者様 限定> **利用料金 割引キャンペーン**

小規模多機能型居宅介護ぼやあ樹では、2026年3月1日～2026年4月30日の期間に、利用登録となった生活保護利用者様を対象に、利用料の自費分(食事代・宿泊代)の金額変更をいたします。

【食事代】
朝食500円 → 400円
昼食700円 → 500円
おやつ200円 → 100円
夕食800円 → 500円

【宿泊代】
1泊3,150円 → 1,000円

対象者 2026年3月1日～2026年4月30日の期間に利用登録となった生活保護利用者
期間 2026年3月1日～2026年4月30日
対象 食事代、宿泊代
注 介護保険が対象外、対象期間に利用登録となった場合は限り、期間以降の申込はなりません。・運送については、概ね3週間となります。

小規模多機能型居宅介護ぼやあ樹 相談窓口(相模原 石井、石川) ☎045-620-5540

同封の資料をぜひご覧ください！

「希望をカタチに」 — Vol.1 —

代表取締役 石川 洋一



「希望をカタチに」——

その原点を、ひとつのエピソードから振り返ります。

ぼやあ樹の掲げる「希望をカタチに」という言葉は、私が長年“看取り”の現場に身を置くなかで、いつの間にか心の奥に根づいていった想いです。

看取りとは、ただ最期の瞬間を見守ることはありません。その人が「どう生ききりたいのか」「何を大切に生きてきたのか」、最後まで寄り添い続ける営みだと、私は考えています。

医療や介護、福祉の現場では、「もう希望なんてないですよね」そうつぶやかれるご本人やご家族に、これまで何度も出会ってきました。

けれど、耳を澄ませば——そこには必ず、小さくても確かな願いがあります。人それぞれで、同じものは一つとしてありません。そしてその願いこそが、その人らしさなのだ、私は現場で教えられてきました。自宅の窓から、季節の移ろいを感じたい。家族と同じ食卓を囲みたい。最期まで、自分らしくありたい。その一つひとつが、かけがえのない「希望」なのです。

忘れられないエピソードがあります。がん末期で、自宅での看取りを強く希望されていた方でした。

当時の私は、多少の経験は積んでいたものの、自宅での看取りは初めてでした。それでも、ご本人と娘さんの想いはとてもシンプルで、まっすぐでした。

「何のしがらみもなく、最後までこの家で生活したい」

私は“支援する側”としてではなく、その方の「生活」にお邪魔させてもらう気持ちで関わらせていただきました。生活の中に溶け込ませてもらった、あの感覚は、今も鮮明に心に残っています。

ほどなくして、三か月ほどが過ぎた頃、その時期が近づいていることが誰の目にも分かるようになりました。

「何か、希望はありますか」

そう尋ねたとき、返ってきた言葉は意外なものでした。

「死ぬ前に、横綱の土佐犬に会ってみたい」

正直、簡単なことではありませんでした。それでも私は、土佐犬協会の東京支部に連絡を取り、事情を伝えました。すると偶然にも、その時期、東京に土佐犬がいることが分かり、対面が叶うことになったのです。当日、ご本人はすでにベッドで横になり、会話もままならない状態でした。時間が残されていないことも、ご本人はよく分かっておられました。

それでも——土佐犬と対面した瞬間、彼はふっと身を起こし、まるでムツゴロウさんのように、土佐犬を撫でまわしたのです。土佐犬も、何かを察したのでしょうか。表情一つ変えず、すべてを受け入れるように、じっとその時間を共にしていました。そのときのご本人の表情は、今でも忘れられません。言葉はいらない、心から満たされた顔でした。

そして翌日。彼は、娘さんと共に、愛した自宅で静かに最期を迎えられました。

私たちの役割は、「仕方がない」で終わらせないことだと思っています。どうすれば実現できるのか。誰と、どんな知恵を重ねれば叶えられるのか。医療・介護・福祉という枠を超え、想いを持ち寄ることで、希望は少しずつでも“カタチ”になります。それがどんなに些細なことであっても、ご本人にとっては、かけがえのない宝物になることが多いのです。

ぼやあ樹が大切にしてきたのも、そんな日常の中にある、小さな、しかし確かな希望です。

看取りのプロとして。そして、一人の人間として。

これからも私は、希望を言葉で終わらせず、目に見えるカタチにしていきたいと思います。その姿勢を、皆さんと共に育んでいきたいと、心から思っています。



次回もまた、新たな「希望をカタチに」の物語をお届けいたします。